

函館市医療・介護連携推進協議会

【情報共有ツール】 『はこだて医療・介護連携サマリー』

“Process”

— 平成31年2月27日 特養シンフォニー職員内部研修会 —

函館市医療・介護連携推進協議会では、

【情報共有ツール】

『はこだて医療・介護連携サマリー』

を多職種との協議を経て作成・運用開始  
しましたが、運用に至るまでと、今後の  
ツール発展の為の“**Process**”とその“**連携サ  
マリー**”を説明致します。

【情報共有ツール】 『はこだて医療・介護連携サマリー』

Process ① 作成の目的・運用プランの決定

## 医療・介護関係者の声

### ○H27年5月に函館市が行ったアンケート調査

『情報共有するシステムや書式が明確になる事で連携が図りやすくなると思う』

『書式は、様々なものが出ているが統一されればと思う』

『各施設、医療機関でフェイスシート、基本情報等が存在するがその内容が様々である。それぞれが共通に記録できるツールがあれば、便利』

### ○27年度の第一回多職種研修会での意見聴取

『それぞれの機関によって、情報提供の仕方や量に差がある』

『医療、介護、在宅、共通の情報ツールで情報共有したい』

## 医療・介護関係者の声などを受け…

『函館市医療・介護連携推進協議会』では“医療・介護連携”推進を強化すべく、医療・介護サービス事業者等へのアンケート調査や、意見を伺い協議した結果、情報にバラツキの無い、地域で統一された【情報共有ツール】の整備を望む意見が強く伺えた事を踏まえ、有識者等による「情報共有ツール作業部会」を設置し、更に各種関係事業者や団体等との議論も重ねました。

# 函館市医療・介護連携協議会 情報共有ツール作業部会

函館歯科医師会 大内 英樹  
函館薬剤師会 星野 志津代  
北海道看護協会 加藤 由美子 → 岩田 明美  
道南在宅ケア研究会 岡田 晋吾  
函館地域医療連携実務者協議会 亀谷 博志・熊倉 慎治  
北海道医療ソーシャルワーカー協会 石井 義人  
函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 横山 文昭  
函館市地域包括支援センター連絡協議会 松野 陽  
函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 吉荒 龍哉  
道南訪問看護ステーション連絡協議会 保坂 明美

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

# 作成目的

医療・介護サービスを必要としている高齢者等の情報を一元的に把握する事が出来、地域で統一されたツールを活用する事によって関係職種（機関）間で、より活発な連携が行われ、よりよい医療や介護サービスが提供されることを目的としたうえで、

- どの職種の方でも分かりやすく
- 見やすく
- 連携しやすい、を重視した

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』を作成。

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## 運用理念

- 職種にとらわれない、分かりやすい内容  
言葉・文字の情報提供
- “各医療・介護施設内・外” の多職種連携を推進
- 連携窓口を明確にして密な情報提供と共有の徹底

【情報共有ツール】 『はこだて医療・介護連携サマリー』

## Process ② 活用方法・フォーマット構築の決定

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## 活用対象者

「病院・在宅・施設」等の間で、

対象者の病状や生活・環境等の変化において調整支援が必要となった

- ・ 65歳以上の方
- ・ 第2号被保険者で介護保険サービスを利用している方、これから利用を希望する方

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

# 活 用 方 法

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』は、対象者の病状や生活・環境等の変化において調整支援が必要となった場合に『「医療側」・「介護側」との双方連携』において活用するものであり、**作成側(渡す側)**は各医療・介護の施設や事業所における「連携担当者」が活用対象者である利用者本人、または、その家族の同意を得た上で、必要な情報を“多職種”の協力のもと、記入作成しコピーを保管。原本を**連携相手(受ける側)**に迅速に提供します。

# 「はこだて医療・介護連携サマリー」の構成

## 1. 基本ツール・基本ツール②

対象者フェイスシートであり、情報共有の基本様式。

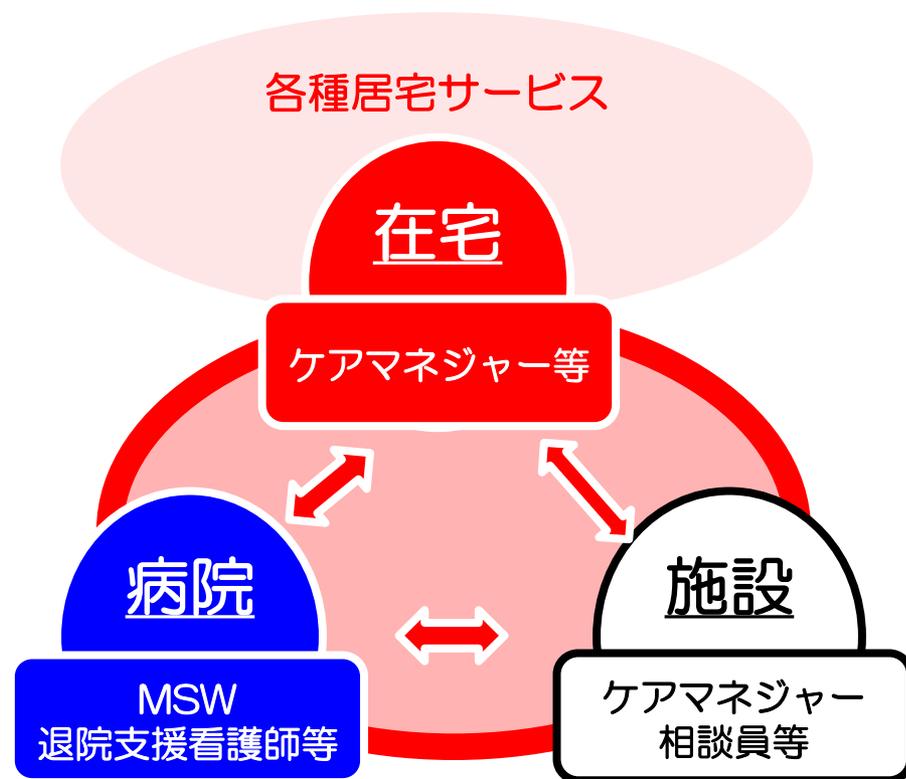
## 2. 応用ツール

基本ツールに記載されている「特別な医療」等を要する場合に標準情報を記載し作成します。

以上の2つのパターンで構成

# サマリー活用場面の基本イメージ

- 活用場面① 『病院⇔在宅』
- 活用場面② 『病院⇔施設』
- 活用場面③ 『在宅⇔施設』
- 活用場面④ 『病院⇔病院』
- 活用場面⑤ 『在宅⇔在宅』
- 活用場面⑥ 『施設⇔施設』



## 活用場面① 『病院⇔在宅』

- **病院**(MSW、退院調整看護師等) → → → **在宅**(ケアマネジャー等)  
～自宅退院前等に調整が必要な場合 等
- **在宅**(ケアマネジャー等) → → → **病院**(MSW、退院調整看護師等)  
～病状の変化や、積極的治療を要する為に入院(検査は除く)加療等を要する場合 等

## 活用場面② 『病院⇔施設』

- **病院**(MSW、退院調整看護師等) →→→ **施設**(ケアマネジャー、相談員等)  
～退院後の施設入所が決定し事前に調整が必要な場合 等
- **施設**(ケアマネジャー、相談員等) →→→ **病院**(MSW、退院調整看護師等)  
～病状の変化や、積極的治療を要する為に入院(検査は除く)加療等を要する場合 等

## 活用場面③ 『在宅⇔施設』

- **在宅**(ケアマネジャー等) →→→ **施設**(ケアマネジャー、相談員等)  
～施設入所が決定し情報提供する場合 等
- **施設**(ケアマネジャー、相談員等) →→→ **在宅**(ケアマネジャー等)  
～施設退所が決定し事前に調整が必要な場合 等

## 活用場面④

## 『病院⇔病院』

- **病院**(MSW、退院調整看護師等) → → → **病院**(MSW、退院調整看護師等)  
～病状の変化や、積極的治療を要する為に転院(検査は除く)加療等を要する場合 等  
～リハビリや療養を目的に転院を要する場合 等

## 活用場面⑤

## 『在宅⇔在宅』

- **在宅(ケアマネジャー等)** →→→ **在宅(ケアマネジャー等)**  
～居宅変更や包括と居宅間での担当変更が決定し情報提供する場合 等  
～ケアマネジャーや包括の職員が他の在宅支援者（サ高住等の入居サービス含む）への情報提供する場合 等

## 活用場面⑥ 『施設⇔施設』

- 施設(ケアマネジャー、相談員等) →→→ 施設(ケアマネジャー、相談員等)  
～入所施設が変わる場合 等

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 個人情報取り扱い

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』には、数多くの個人情報が含まれているので取り扱いには最大限の注意を払ってください。

作成・送付等に関しては必ず、活用対象者である利用者本人または、その家族の同意を得る事を大前提といたします。

【情報共有ツール】 『はこだて医療・介護連携サマリー』

Process ③ 各種マニュアルの作成

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 活用マニュアル

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』の活用にあたっては、幅広いツールの活用を推奨し、関係職種（機関）間で、より活発な連携が行われ、よりよい医療や介護サービスが提供されることを目的として活用するために、作成・管理等に関してのガイドライン等を記した「活用マニュアル」を作成致しました。

# 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 作成マニュアル

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』の作成にあたり、

1.基本ツールと2.応用ツールの基本的な作成のルールを作成致しました。

# 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 基本ツール作成評価基準マニュアル

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』の1.基本ツールの作成にあたって指標となる評価基準を設定する事により、各職種による評価の差異をなくし、同じ評価基準の中で情報の共有が可能となり、より正確なイメージの共有化が図れるよう作成致しました。



【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## Process ④ 試験運用の実施

# 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 試験運用の実施

平成29年4月より【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』の“試験運用“を開始

## 【実施の流れ】

- 平成29年3月に全情報共有ツール様式を確定
- 「情報共有ツール作業部会」において、各関係団体へ事前周知を実施
- 1.基本ツール 2.応用ツール を実際に活用
- 4月 ①病院⇒病院 ②病院⇒在宅 ③病院⇒施設 の場面で活用
- 6月 試験運用協力機関を居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・施設・サ付有料へ拡大し在宅・施設含めた全場面での試験運用を実施

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』  
**試験運用の協力機関**

計3機関

平成29年4月～試験運用を以下の機関で実施

- 函館五稜郭病院
  - 函館中央病院
  - 函館市医師会病院
- で活用

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』  
**試験運用の実施機関**

プラス25機関

平成29年6月～試験運用を以下の機関で実施

- 【病院】 ●国立函館病院 ●おおむら病院 ●西堀病院
- 【居宅】 ●シンフォニー ●ハーモニー ●あさひ ●百楽園 ●白ゆり  
●はくあい園 ●あんじゅう ●すみれ ●西堀 ●あんしん松風
- 【包括】 ●包括たかおか ●包括ときとう ●包括神山
- 【施設】 ●ショートケンゆのかわ ●ショート白ゆり美原  
●シンフォニー ●桔梗みのりの里 ●有料こん
- 【サ付】 ●(株)ハーモニー系列 ●サ高住亀田日和 ●ジャパンケアサービス  
●ハートTOハート北浜

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』  
**試験運用の実施機関**

プラス13機関

平成29年11月～試験運用を以下の機関で実施

- 【病 院】 ●高橋病院
- 【居 宅】 ●グランドサン亀田 ●こうせいえん ●ステラ
- 【包 括】 ●包括あさひ ●包括亀田 ●包括よろこび
- 【施 設】 ●永楽荘 ●あい亀田港 ●幸成園
- 【訪 看】 ●訪看フレンズ ●訪看ケンゆのかわ ●訪看オハナ

【情報共有ツール】 『はこだて医療・介護連携サマリー』

## Process ⑤ モニタリングとアセスメントの実施

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 モニタリングの実施

平成29年4月からの試験運用期間にて、ツールの「作成側」+「受取側」と双方からの意見を「函館市医療・介護連携支援センター」で集約。

### 【モニタリング実施時期】

- 平成29年7月20日部会開催 (1回目 平成29年4月～6月)
- 平成29年10月26日部会開催 (2回目 平成29年7月～9月)
- 平成30年2月27日部会開催 (3回目 平成29年10月～平成30年1月)

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 アセスメントの実施

函館市医療・介護連携支援センターで実施・集約したモニタリング結果を元に、課題等の抽出、内容・構成等のアセスメントを定期的に「情報共有ツール作業部会」で実施し、以下に取組み活用推奨として正式運用を「函館市医療・介護連携推進協議会」へ提案。

- フォーマットの修正
- マニュアルの整備と記載例マニュアルの新規作成
- 参考リンクの検討

【情報共有ツール】 『はこだて医療・介護連携サマリー』

Process ⑥ フォーマット決定と正式運用の開始

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## 1. 基本ツール・基本ツール②

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』の“フェイスシート”であり、情報共有の基本。

基本ツールの記載内容により [2.応用ツール](#) の作成が必要となります。

[様式パターン 2種類—各1枚]

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## 2. 応用ツール

1.基本ツール に記載されている「特別な医療」等を要する場合、本ツールの標準情報を記載し作成します。

[様式パターン 18種類—各1枚]

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## 2. 応用ツールの種類

- ① 付帯情報管理
- ② 褥瘡管理
- ③ 認知症管理
- ④ 食事摂取困難管理
- ⑤ 自己腹膜灌流管理
- ⑥ 酸素療法管理
- ⑦ 中心静脈栄養法管理
- ⑧ 糖尿病治療管理
- ⑨ 経管栄養法管理
- ⑩ 膀胱留置カテーテル管理
- ⑪ 自己導尿管管理
- ⑫ 腎瘻・尿管皮膚瘻管理
- ⑬ 人工呼吸療法管理
- ⑭ 気管カニューレ管理
- ⑮ 人工肛門・人工膀胱管理
- ⑯ 感染に関する管理
- ⑰ 緩和ケア情報共有シート
- ⑱ 特記事項

# 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 はこだて医療・介護連携サマリー 運用説明会の開催



## はこだて医療・介護連携サマリー運用説明会

基調講演 「おもいやりのあふれる地域のために」  
講師 医療法人社団 守一会 北美原クリニック  
理事長 岡田 晋吾 先生



説明 「はこだて医療・介護連携サマリ－の  
活用方法について」  
説明者 函館市医療・介護連携支援センター



## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 平成30年3月 正式運用開始

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』の正式運用については、試験運用による段階的な活用施設拡大を鑑みて、定期的なモニタリングを経た後に「情報共有ツール作業部会」により協議・検討し、平成30年3月22日の「函館市医療・介護連携推進協議会」へ実施報告。

説明会や各関係団体等へホームページやデータ送信による様式とマニュアルの配布を広く実施して平成30年3月26日から正式運用を開始。

【情報共有ツール】 『はこだて医療・介護連携サマリー』

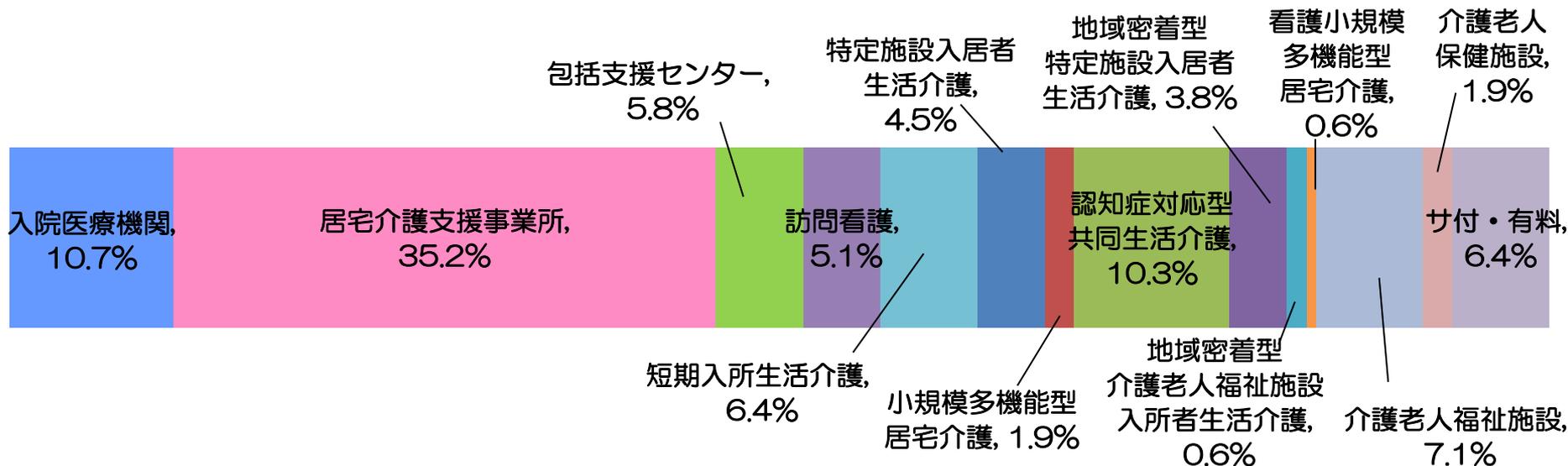
## Process ⑦ 正式運用後の(継続)アセスメント

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 正式運用後のアセスメント

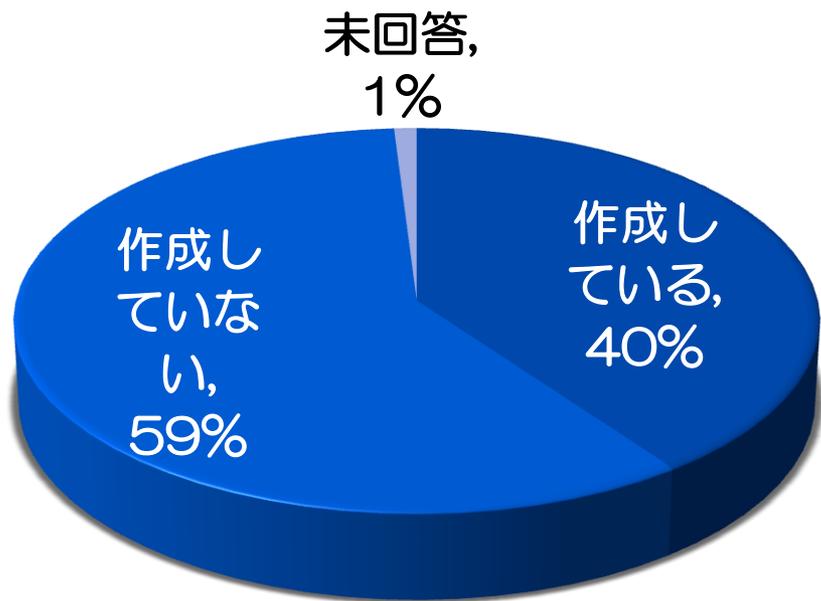
【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』のアセスメントについては、正式運用後についても事務局となる「函館市医療・介護連携支援センター」により情報収集を諮り、継続して「情報共有ツール作業部会」等で協議・検討おこない、効率的に、効果的に、幅広く活用して頂ける様に医療・介護の多職種連携の活性化を図るため実施。

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 第2回目のアセスメント

- ・実施対象機関 平成30年7月～12月
- ・アンケート 411事業所 に配付  
～回答数 159事業所 ～回答率 39%

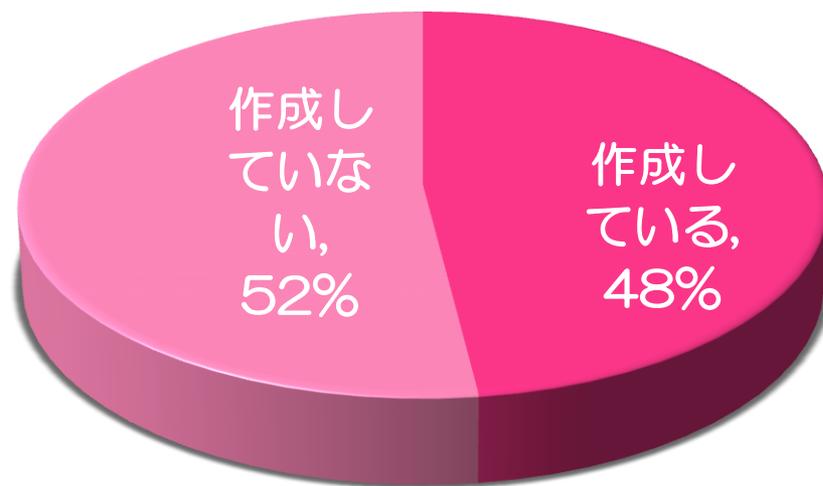


# ● サマリーを作成し、情報共有に活用されたことはありますか？



第1回

平成30年4月～6月



第2回

平成30年7月～12月

【情報共有ツール】 『はこだて医療・介護連携サマリー』

## Process ⑧ ICT等を活用した発展運用

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## 函館市内のICT

- Medlka
- 高橋病院： Medlka ・ ぱるな
- 函館五稜郭病院： Gネット
- 函館中央病院： Cネット
- 函館市医師会病院： 画像連携システム H I C A S

Etc…

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## ICT活用化に向けて情報共有ツールが必要な理由

- 情報を受け取る方へのおもいやり（相互理解と負担軽減）
- 共有化していないと発展もしない（ツールを作ったら終了ではない）
- 応用ツールで同職種連携ができ、地域のエキスパートの最新の知識がいつでも知ることができる

**情報共有ツールが無ければ<ICT化>(負担軽減)もできない**

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 ICT活用化に向けての取組み

- “情報共有ツール作業部会” でのICT勉強会の継続実施
- 現状運用内でのICT活用性の検討
- 道南医療圏ICTの把握
- 厚労省の医療等分野情報連携基盤検討会で検討されている「全国保健医療情報ネットワーク」の状況把握

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』

## 情報共有ツールとICT

「情報共有ツール」の発展にとって「ICT」等はマストアイテムであり、切り離して考える事の出来ない関係である事は事実である。

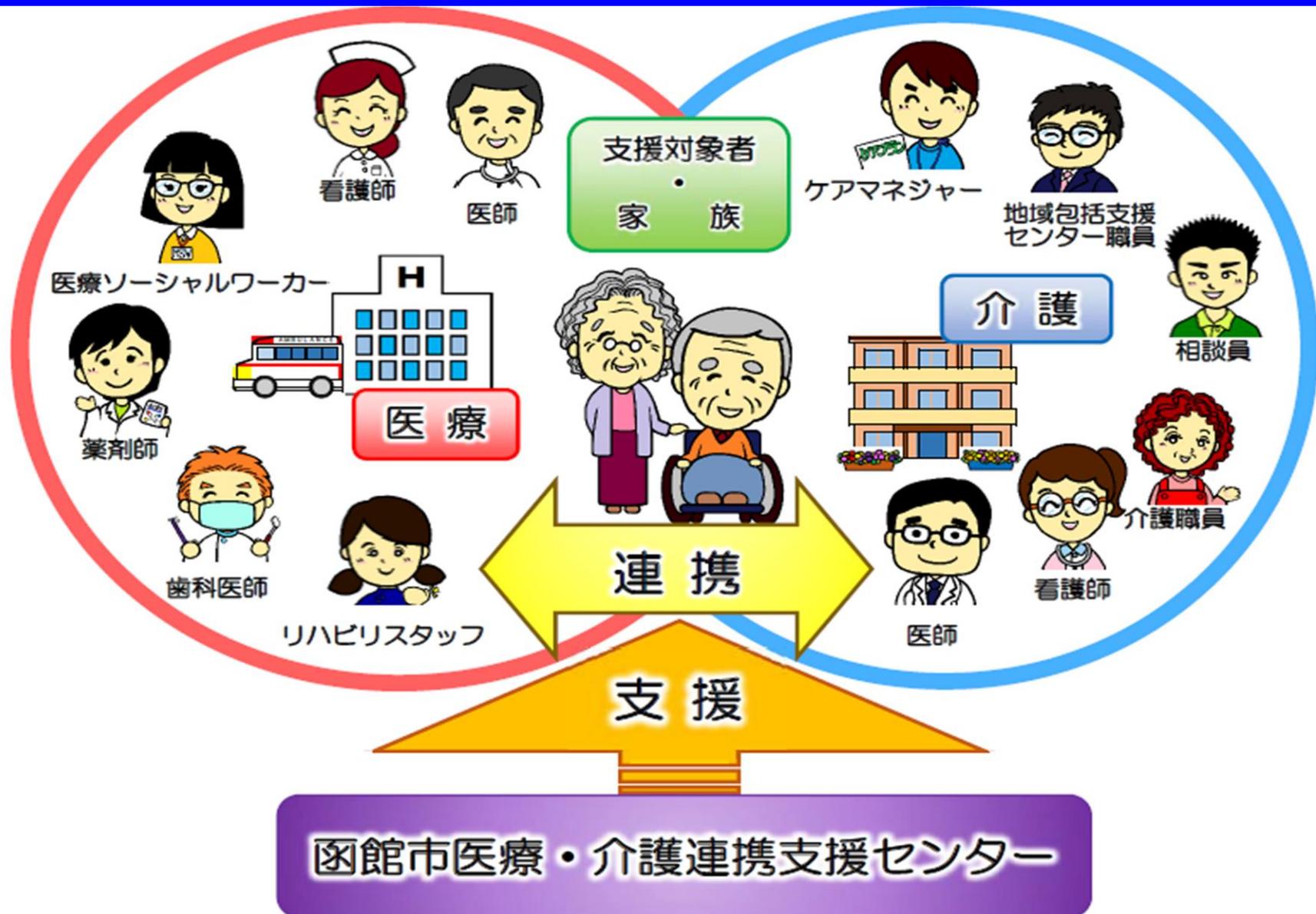
協議会・センターとしては今後も、積極的にICTによる情報共有を図る事を追求していく事として、効率的で質の高い医療・介護連携を目指します。

## 【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 みなさんをお願いしたいこと

- 多職種共有のツールとなります。どの職種の方でもわかりやすい言葉で記載をお願いします。
- サマリーの作成にあっては、多職種の連携・支援が必要となりますので、是非ともご協力をお願いします。
- 重要な個人情報ですので、個人情報保護への対応は重大な社会的責任であると認識し、本人の権利の保護、個人情報に関連する法令等の遵守をお願いします。

【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』  
みなさんをお願いしたいこと

おもいやりのあふれる地域となるために、  
『はこだて医療・介護連携サマリー』を積極的に  
ご活用くださいますようお願いいたします。



# おもいやりのあふれる 地域になることを目指して

